



今般、企業会計基準委員会（ASBJ）の副委員長に就任した紙谷です。学生時代、斎藤静樹先生（初代 ASBJ 委員長）のゼミで会計学を学び、1989 年に公認会計士 2 次試験に合格した後、太田昭和監査法人（現 EY 新日本有限責任監査法人）に入所しました。監査法人においては、上場企業の監査業務に従事するほか、会計基準や監査基準に関連する品質管理業務に携わってきました。直近では、経営専務理事リスク管理本部長として、全社的なリスク管理を行うとともに法人経営に関与してきました。

会計基準に関する興味ですが、自分が二十歳台であった頃、監査法人の先輩で当時、日本公認会計士協会で実務指針の作成に関与している方がいて、「将来、このような仕事をしてみたい。」と思ったのが最初でした。とは思ったもののしばらくの間はそのような機会はなく黙々と現場の業務を行っていたのですが、IFRS 強制適用が話題になった時期に監査法人で IFRS 推進活動の責任者となり、それがきっかけで 2012 年に ASBJ に出向することになりました。

ASBJ 出向時は、日本版 IFRS と言われた修正国際基準（JMIS）や繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の開発を行ったり、IASB が議論を行っていた概念フレームワークに関する国際的な意見発信を行ったりしました。特に思い出深いのが IASB の会計基準アドバイザリー・フォーラム（ASAF）に対して純損益と OCI、リサイクリングに関するペーパーを提出したことです。ASBJ 内部でかなりの時間をかけて議論を行い、ペーパーにまとめたものであり、ASAF で発表できた際には感慨深いものがありました。その後、その内容が西川郁生元委員長と川西安喜現委員長との共著としてアメリカの Accounting Horizons に収録されたのは自分の人生の勲章としてありがたく思っています。

今回、6 年半ぶりに ASBJ に戻ることになったのですが、一番の思いとしては先人の知恵をしっかり引き継ぎたいということです。リサイクリングなど日本においてこれまで重要と考えられてきた会計に関する考えを引継ぎ、次世代に受け継いでいきたいと思っています。その一方、時代の要請により新たな技術や取引が次々と出てきますので、会計基準が時代から取り残されないようにアイデアを出して対応していかなければならないと思います。さらに、そのような日本の考えを国際的に発信していくことにも力を入れていきたいと思っています。

委員長及び委員の紹介

皆様の意見を十分に聞いて柔軟に対応していきたいと思いますので、何卒ご指導ご鞭撻頂
けますようお願い申し上げます。